

感染症定期報告の報告状況(2012/4/1~2012/7/31) 資料 4-1

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	B型肝炎	Vaccine. 30(2012)2212-2219	B型肝炎ウイルス(HBV)感染の世界的疫学に関する報告。HBV感染症の疫学的調査を行うために関連する研究論文を体系的に再評価し、世界的なHBs抗原陽性率のデータを27年間分(1980年-2007年)収集した。また、1990年と2005年における年齢別有病率及び流行性について推定した。その結果、1990年から2005年で多くの地域で慢性B型肝炎の有病率は減少していたが、HBs抗原陽性者の絶対数は増加した。年齢別の有病率はサハラ以南が最も高く、地理的地域によって変化した。アジア地域では、東アジアのHBs抗原陽性率は最高8.6%と高レベルであるが、南アジアでは低かった。北アメリカやヨーロッパでの有病率の減少は、B型肝炎ワクチンの普及や血液製剤検査の改善などが関連している。また、疾病負荷の大きい東南アジアや東アジアの地域でも、幼児へのB型肝炎ワクチン接種が広まった事に伴い有病率が減少している。
2	B型肝炎、C型肝炎、HIV	J Infect Dis. 205(2012)875-885	米国の供血者におけるヒト免疫不全ウイルス(HIV)、C型肝炎ウイルス(HCV)とB型肝炎ウイルス(HBV)の感染時期による遺伝型多様性に関する報告。HIV、HCV、HBVの遺伝的変化を観察するため、3,400万人の米国の供血者情報(2006-2009年)から感染者を特定し、最近感染した(incident)供血者とそれより以前に感染した(prevalent)供血者との間でウイルスゲノムを比較した。その結果、321例のHIV株(50%がincident)のうち、2.5%はサブタイプが非B型であった。プロテアーゼ阻害剤耐性変異は2%、逆転写酵素阻害剤耐性変異は11%の感染供血者に見られた。また、278例のHCV株(31%がincident)において、incident症例ではサブタイプ3aが高頻度で発見されたのに対し、prevalent症例では1bが多かった。193例のHBV株(26%がincident)サブジェノタイプは、incident症例でA2、prevalent症例ではA1、B2、B4がより高い頻度で見られた。また、HBVのエスケープ変異はprevalent症例で高頻度で見られた。このような供血者のウイルスジェノタイプの変異分布は、米国の高リスク集団のジェノタイプ分布と類似していた。
3	E型肝炎	Intervirolgy. received Apr 27, 2012	フランスにおける2つの異なるサブタイプのE型肝炎ウイルス(HEV)の共感染の報告。2008年4月、腎移植の既往があり免疫抑制療法を受けていた65歳のフランス人患者が急性肝炎を呈し、HEV-RNAが検出されE型肝炎と診断された。さらに、2008年5月、6月、7月に採取された血清サンプルより遺伝子型3c、3eのHEVに共感染していることが確認された。患者は発症前に生と加熱調理したフィガテル(ブタ肝臓シーソー)を摂食しており、血清から分離されたウイルスの遺伝子配列は地元のスーパーマーケットで販売されていたフィガテルから回収した2つのウイルス配列と酷似していた。
4	HIV	Telegraph. Feb 6, 2012	キルギスにおけるHIV感染増加の報告。輸血、医療機器を介した感染や不衛生状態によりHIV感染が増加している問題で、キルギス政府は南部の子供を対象にHIV/AIDS検査を実施している。キルギス保健省は、今までに11万人の検査により270人のHIV陽性を確認したと公表した。
5	インフルエンザ	http://www.cidrap.umn.edu/cidrap/content/influenza/swineflu/news/dec3011fluscan.html	ベトナムのブタにおけるインフルエンザウイルス陽性率に関する報告。2009-2010年、ベトナム北部の農場及びと畜場のブタにおいてインフルエンザH1N1ウイルスに関する調査が行われた。その結果、と畜場で抗体陽性率が最大であったのはヒトにおけるインフルエンザ発生ピークの2週間後の2009年12月末であり、陽性率は55.6%であった。

ID	感染症(PT)	出典	概要
6	インフルエンザ	http://www.thestandard.com.hk/news_print.asp?art_id=117153&sid=34486956&con_type=1&d_str=20111117&fc=4	香港における新規ブタインフルエンザA(H3N2)ウイルス感染の報告。香港の食肉処理場において、2011年8月から10月に採取されたブタ検体1000例の検査の結果、15例に一部ヒト遺伝子が組み込まれた新型ブタインフルエンザA(H3N2)ウイルスが発見された。5月から7月に行われた前回のサーベイランスでも、16例のブタで確認されていた。このウイルスは米国において散発している新規ブタインフルエンザA(H3N2)とは異なるウイルスであると説明されている。
7	インフルエンザ	ProMED-mail 20111021.3134	米国におけるブタインフルエンザウイルスA(H3N2)感染の報告。米国メイン州保健当局は、同州で新規ブタインフルエンザ感染が報告されたと発表した。患者は小児で、2011年10月初旬の農産物品評会にて豚と接触したことが原因として疑われている。患者は入院しておらず、回復に向かっている。同定されたウイルスは以前米国にて4症例が報告されたブタインフルエンザA(H3N2)ウイルスに類似しており、2009年世界的流行のH1N1ウイルスの構成遺伝子を含んでいることが分かった。
8	インフルエンザ	http://www.cidrap.umn.edu/cidrap/content/influenza/swineflu/news/nov211swine.html	米国におけるブタインフルエンザウイルスA(H3N2)感染の報告。2011年11月、アイオワ州においてS-OtrH3N2に感染した小児3例が報告された。全員入院はしておらず、既に回復している。3例は互いに接触しており、最近のブタへの接触はなかった。S-OtrH3N2のヒト感染は未だアイオワでは他に確認されておらず、調査が進められている。今回の3例を含めて、近年S-OtrH3N2の感染が10症例報告された。このウイルスは北アメリカのブタの間で循環しているブタインフルエンザウイルスA(H3N2)とパンデミック2009年インフルエンザウイルスA(H1N1)との再集合体であると考えられている。
9	インフルエンザ	WHO/GAR/Disease Outbreak News Most recent news items 2011.11.24	米国におけるブタインフルエンザウイルスA(H3N2)感染の報告。米政府当局から、3例のブタ由来インフルエンザウイルスA(H3N2)患者が報告された。2011年11月、小児3人(11ヵ月、2歳、3歳)が発熱性呼吸器疾患を発症し、全員がアイオワ州の同一の医療機関を受診した。いずれの患者も入院を必要とせず、回復している。
10	インフルエンザ	CDC FLUVIEW 2011-12 Influenza Season week14 ending April 7, 2012 http://www.cdc.gov/flu/spotlights/h3n2v-variant-utah.htm	米国における2012年ブタインフルエンザウイルスA(H3N2)感染の報告。米国CDCは、2012年初めてとなるインフルエンザA(H3N2)ウイルス感染を小児1例で確認した。ウイルスは2011年7月-11月に米国において12例が感染したH3N2ウイルスと酷似している。患者は発症の前週にブタと接触していたことが確認された。
11	インフルエンザ	MMWR. 61(2012)414-420	米国における新規ブタインフルエンザウイルス感染に関する報告。2011年8月以降、6州でpH1N1ウイルスのM遺伝子を有する新たなブタ由来インフルエンザA(H3N2)変異(H3N2v)ウイルスのヒト感染例13例が報告された。このうち3例は入院したが、全例が回復した。13例中6例は最近のブタとの接触歴がなかった。また2011-12シーズン中には2種類の新たなウイルス[インフルエンザA(H1N2)変異(H1N2v)ウイルス、インフルエンザA(H1N1)変異(H1N1v)ウイルス]が各1例、同定された。FDAは2011-12シーズンのインフルエンザ活性の概況から、2012-13シーズンの3価インフルエンザワクチン製剤の成分として、A/California/7/2009様(pH1N1)、A/Victoria/361/2011様(H3N2)、B/Wisconsin/1/2010様ウイルスを推奨した。

ID	感染症(PT)	出典	概要
12	インフルエンザ	PNAS Early Edition. Jan17, 2012	コウモリから得られた新系統のインフルエンザウイルスに関する報告。グアテマラで捕獲されたアメリカケンショウコウモリよりインフルエンザウイルスが発見され、既知のインフルエンザAウイルスと遺伝子的に大きく異なっていた。ヘマグルニチン(HA)は既知のHAサブタイプとほぼ同時期に分岐したものと推定され、H17と指定された。ノイラミニダーゼ(NA)遺伝子は全ての既知インフルエンザNAと大きく異なっており、内部遺伝子は既知の遺伝子系統で推定される分岐よりも前に分岐したものであると考えられた。このウイルスは培養細胞やニワトリ胚において増殖に失敗したものの、ヒト細胞内でヒトインフルエンザウイルスと遺伝子交換する能力を有しており、再集合を経て新たなパンデミックを引き起こす潜在性が示唆されている。
13	クリミア・コンゴ出血熱	ProMED-mail 20110917.2833	パキスタンにおけるクリミア・コンゴ出血熱の報告。パキスタン Quettaで医療従事者2例を含む4例のクリミア・コンゴ出血熱患者が確認された。医療従事者2例はアフガニスタンからパキスタンへ搬送されたクリミア・コンゴ出血熱患者の手術に立ち会っていた。他の2例はアフガニスタン難民とKuchlak出身の若年者である。
14	クリミア・コンゴ出血熱	ProMED-mail 20111027.3199	パキスタンにおけるクリミア・コンゴ出血熱の報告。パキスタン Khyber Pakhtunkhwaにおいて、成人のクリミア・コンゴ出血熱患者1例が報告された。患者は死亡し、2011年初の死亡例となった。
15	クリミア・コンゴ出血熱	ProMED-mail 20111120.3416	パキスタンにおけるクリミア・コンゴ出血熱の報告。パキスタン Sindhにおいて、29歳の男性1例が入院先で死亡し、後にクリミア・コンゴ出血熱であることが判明した。患者は発病前にウシの市場で1週間働いていた。
16	ハンタウイルス	Clin Infect Dis. 54(2012)e1-e4	ハンタウイルス属ドブラバーベルグレドウイルス(DOBV)の変異ウイルスに関する報告。ロシア南部 Sochiにおいて、激症の臨床経過(ショック、急性腎不全、急性呼吸不全、DIC)を伴い死亡した47歳女性の血液検体より、DOBV-Aa及びDOBV-Apに対する抗体が検出され、さらに地域固有の変異ウイルスである Sochi ウイルス(DOBV-Ap系統)が分離された。ヒト由来の Sochi ウイルス株分離は初めてであり、Sochi/huと命名された。Sochi ウイルスは病原性が高く、致死性疾患を引き起こす病原体として考えられた。
17	狂犬病	Emerging Infectious Diseases. 18(2012)664-667	タンザニアで発見された新規狂犬病ウイルスに関する報告。2009年11月、タンザニアの Ikoma において狂犬病の臨床症状を呈したアフリカジャコウネコが発見され、捕獲された。脳検体は抗ラッサウイルス抗体陽性であった。分離されたRNAの分析により、これまで報告のない新規のタイプであり、リッサウイルス種の West Caucasian bat virus(WCBV)と類似していた。捕獲される前に足を噛まれた小児が1例報告されたが、その後のワクチン投与、免疫グロブリン投与を受けて回復している。
18	チクングニヤウイルス感染	Emerging Infectious Diseases. 18(2012)493-495	中国におけるチクングニヤ熱アウトブレイクの報告。2010年10月、中国広東省の2つの隣接した村でチクングニヤ熱アウトブレイクが発生し、173例の患者が報告された。最初の患者は9月1日に発症し、9月19日以降、患者数が急増した。死亡した患者はおらず、大部分の患者は1週間以内に回復した。12人の急性期患者及び3人の回復期患者から血清検体を採取し、このアウトブレイクを引き起こしているチクングニヤウイルスの系統発生解析を行ったところ、このチクングニヤウイルスは東/中央/南アフリカ(ECSA)サブグループのインド洋分岐群に属することが示された。前月、広東省の天気は雨が多く、これにより媒介蚊の個体数が増加したと考えられる。
19	チクングニヤウイルス感染	Transfusion; published online. Feb 17, 2012-2	血漿分画製剤製造工程におけるチクングニヤウイルス(CHIKV)の不活化に関する報告。血漿分画製剤のウイルス不活化行程のCHIKVに対する影響を検討するために、低温殺菌、蒸気過熱、S/D処理及びpHインキュベーション法によるCHIKV及び類似ウイルスであるシンドビスウイルス(SINV)の不活化効率を調査した。その結果、処理後のウイルスカ価からは評価した工程にCHIKV及びSINVに効果的な不活化効果があることが示された。これはモデルウイルスが用いられた初期のバリデーション研究の結果を裏付けた。

ID	感染症(PT)	出典	概要
20	黄熱	ProMED-mail 20111125.3453	ブラジルにおけるサルの黄熱疑い例に関する報告。ブラジルのクイアバ保健当局は、2011年10月21-28日の期間に起きた11例のサルの死亡について調査を開始した。保健当局は、1例でも霊長類の死亡が発生すればヒトの黄熱感染防止のために注意を呼びかけている。ブラジルでは、1942年以降都市型感染は発生していない。
21	黄熱	ProMED-mail 20120308.1064957	ブラジルにおけるサルの黄熱に関する報告。ブラジルのSao Luis de Montes Belos 近郊の農場で、死亡したサルが2週間に2例発見され、黄熱ウイルス感染が死因であると確認された。市民に対し、ワクチン接種が呼びかけられている。
22	デング熱	http://wwwnc.cdc.gov/travel/notices/outbreak-notice/dengue-marshall-islands.htm	マーシャル諸島におけるデング熱の報告。マーシャル諸島共和国においてデング熱のアウトブレイクが報告された。症例は首都Majuroに集中している。保健当局は住民に対し蚊の回避措置をとるよう推奨した。
23	灰白髄炎	ProMED-mail 20120107.1002919	各国におけるポリオ撲滅の進捗状況に関する報告。2011年のポリオ新規患者は世界全体で620例であり、そのうち流行国315例、非流行国305例であった。アフガニスタン74例、インド1例、中国21例、パキスタン191例との状況である。
24	口蹄疫	OIE 2011 December 22	台湾における口蹄疫:発生日 2011年12月19日、最初の確定日 2011年12月20日、報告日 2011年12月22日、原因 口蹄疫ウイルス O型。2011年12月19日に台南で口蹄疫のアウトブレイクが発生した。ブタにおいて、感染の疑い例2667頭、確定例983頭、死亡例0頭、屠殺例983頭であった。
25	口蹄疫	ProMED-mail 20111111.3349	キルギスタンにおける口蹄疫の報告。2011年11月11日、キルギスタン首相が国内で発生する口蹄疫感染流行に対する緊急対応を指示したことが、政府広報から発表された。農業相は、全国の62か所で6000頭のウシが感染したと明らかにした。10月に現行ワクチンによる予防効果が見られない新たな病原体A-Iran-5が発生したと述べられている。
26	パルボウイルス	Transfusion; published online. Feb 17, 2012-1	パルボウイルスB19(B19V)遺伝子型3の不活化に関する報告。北米・欧州では稀で他の遺伝子型と比較してデータが少ないB19V遺伝子型3の不活化について研究するために、人血清アルブミンの低温殺菌と低pHインキュベーションによるB19Vの不活化効率を細胞培養系への感染力の形で評価し、遺伝子型1、3で比較した。また、ウイルス中和試験を人免疫グロブリン製剤を用いて行った。その結果、アルブミンの低温殺菌と低pHインキュベーションは遺伝子型1、3のB19Vに対し同程度の不活化活性を示した。また、北米及び欧州由来のグロブリン製剤によって両遺伝子型のウイルスは速やかに中和された。これらの結果より、低温殺菌と低pHインキュベーションは遺伝子型3のB19Vに対しても不活化活性を持ち、また、人免疫グロブリン製剤が両遺伝子型に起因するB19V感染の治療に対して有効であることが示唆された。
27	ウイルス感染	EFFA News Story. Feb 8, 2012	欧州における家畜のSchmallenberg virus感染に関する報告。欧州食品安全機関(EFSA)は、2012年2月7日に食品連鎖・動物衛生常設委員会(SCOFAH)で検討されたSchmallenberg virusの拡散予測に関する報告書を発表した。感受性の高い動物集団でのウイルス拡大に影響するのは媒介生物の数と温度であると結論されている。報告書には、EU加盟国全体でデータを集めるための技術仕様書が含まれ、EFSAは加盟国と共同で今後の疫学データを共有し、分析結果を定期的に公開していくとした。

ID	感染症(PT)	出典	概要
28	ウイルス感染	OIE Press releases. Feb 16, 2012	欧州における家畜のSchmallenberg virus感染に関する報告。欧州西部におけるSchmallenberg virusの出現を受け、国際獣疫事務局(OIE)は専門家による会議を招集し、ウイルスについて現在の状況の検討と関係者への情報提供作業を開始した。専門家は現時点の情報からヒトへの健康リスクは無視できると結論した。また、ウイルス血症の持続期間は短く、伝播経路は蚊やヌカカなどの媒介である可能性が高いとした。
29	ウイルス感染	HPA-Emerging Infections Monthly Summaries. Mar 21, 2012	欧州における家畜のSchmallenberg virus感染に関する報告。2012年3月16日までに、欧州において農場2380施設よりSchmallenberg virus感染が報告されている。Human Animal Infection and Risk Surveillanceグループは、このウイルスが人獣共通感染症である可能性についての評価結果を英HPAウェブサイトで発表した。人獣共通感染症である可能性は低いものの、曝露量の多い人に対するサーベイランスが重要であると強調されている。
30	ウイルス感染 クロストリジウム感染	CDC/Press Release. Mar 14, 2012	米国における、胃腸炎による死亡例の増加の報告。米国疾病管理予防センター(CDC)は、胃腸炎により死亡した人数が1999年から2007年で2倍以上に増加したと発表した。65歳以上が83%を占めていた。Clostridium difficileとノロウイルスが最も多い感染原因であった。特にC. difficileは8年間で約5倍に増加し、死亡例の3分の2を占めており、これには高毒性株及び耐性株の出現と拡大が影響しているものと考えられた。ノロウイルスは新型株流行の有無によって死亡例数が増減するが、米国における胃腸炎流行の主要原因である。
31	BSE	ProMED-mail 20111207.3543	BSEのウシから発見された新規プリオン蛋白に関する報告。2011年4月、スイスにおいてBSE陽性となったウシ2例より分離されたプリオン蛋白(PrPres)について、エピトープマッピング解析とウエスタンブロット解析を組み合わせて行ったところ、既存のプリオン(C-BSE、H-BSE、L-BSE)とは異なったN末端切断のPrPresが示された。このことから、スイスで発見されたウシ2例が既存の型とは区別されるBSEに罹患していたことが示唆された。現在、確認のためにトランスジェニックマウス及びウシを用いてin vivo試験が実施されている。
32	BSE	ProMED-mail 20120104.0027-5	スイスにおけるBSE感染の報告。2011年春、スイス国内で新たに2例のBSE感染牛の症例が確認された。8歳及び15歳のウシで、それぞれ別の農場で発見され、検査結果より古典型BSEとは異なるプリオンタンパクが認められた。スイス国立研究所は、当該2例は他国で発見された非定型BSEとも異なるとして、更なる調査を行っているとした。
33	BSE	ProMED-mail 20120407.1093352	スイスにおけるBSE感染の報告。スイス獣医学当局によるサーベイランスプログラム活動の中で、ベルンでBSE感染のウシ1例が確認された。当局によると、従来の型ではなく非定型病原体による感染とされており、2005年に禁止された一部の動物飼料による感染ではなかった。
34	BSE	ProMED-mail 20120425.1113102	米国の非定型BSE陽性例に関する米国農務省(USDA)の声明。USDA獣医局長は、USDA動植物検疫所はサーベイランスシステムの中でカリフォルニア州中央部の乳牛1例で国内4例目となるBSEを確認したと述べた。当該牛の屠体は州当局によりカリフォルニアのレンダリング施設に保管されており、処分される予定である。食料供給及びヒトの健康へのリスクはなく、また牛乳によりBSEは感染しないとされた。
35	BSE	FDA Web Site. Apr 26, 2012	米国の非定型BSE陽性例に関するFDAの声明。米国農務省(USDA)はカリフォルニア州の乳牛1例で非定型BSE陽性を確認したが当該牛が動物飼料及び人の食料供給に混入していないことを発表した。FDAは州及び連邦当局と連携して、症例の調査を続けている。
36	BSE	OIE 2012 April 26 ProMED-mail 20120428.1116584	米国におけるBSE:発生日 2012年4月19日、最初の確定日 2012年4月23日、報告日 2012年4月26日、原因 プリオン非定型BSE。2012年4月19日にカリフォルニアでBSEのアウトブレイクが発生した。ウシにおいて、感染確定例1頭、死亡例0頭、屠殺例1頭であった。

ID	感染症(PT)	出典	概要
37	BSE	ProMED-mail 20120429.1117352	米国で発生したBSEに関する情報。米国カリフォルニア州において確認されたBSE陽性例について、米国農務省(USDA)が詳細な情報を公表した。報告された症例はカリフォルニア州ツウラレ郡の10年7ヵ月齢の乳牛であり、現在、出生地について調査中である。症例は農場から加工場へ移送された際にUSDAの定期モニタリングの一環として検査を受けた。USDAは、本症例が非定型BSEであることから、汚染飼料の摂食による感染ではないと考えられると発表した。
38	BSE	ProMED-mail 20120501.1119136	米国で発生したBSEに関する報告。米国農務省(USDA)は、カリフォルニア州の乳牛で確認されたBSE症例について、「L型」BSEとして知られるものであったと発表した。この型は米国初の報告であり、これまでに動物性飼料を介する感染は報告されていない。
39	BSE	ProMED-mail 20120504.1122322	米国で発生したBSEに関する報告。カリフォルニア州で発生したBSE感染牛の報告を受け、米国農務省(USDA)は調査のために関連する2つの農場について隔離を継続している。また当局は、USDAの声明の通り、10年前に1例目のBSEが報告された牧場についても調査を開始した。
40	BSE	ProMED-mail 20120508.1126526	米国で発生したBSEに関する報告。米国農務省(USDA)がOIEに行った報告によると、非定型BSE陽性となったウシは歩行困難のために殺処分されており、10年7ヵ月齢であった。ウシの殺処分後にサーベイランスの一環でBSE検査が行われて判明した。獣医学の専門家によると、非常に稀である非定型BSEは汚染飼料の摂食とは関係がないと考えられるとのこと。
41	クロイツフェルト・ヤコブ病	http://www.afssaps.fr/content/download/40256/524693/version/1/file/point-info-hormonesGonadotrophines-13032012.pdf	尿由来性腺刺激ホルモン(ゴナドトロピン)を介したプリオン感染リスクに関する報告。フランスAfssaps及び生物医学当局は共同で、ゴナドトロピンによるプリオン感染リスクに関する分析を実施している。その報告を受けたEMAより2011年6月に発表されたレターによると、尿中及び尿由来製品中の正常プリオン蛋白の存在が示されたが、感染性病原体の存在を証明するものではなく、専門家により感染性の存在がヒト尿中においては否定されたと結論付けている。
42	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Dement Geriatr Cogn Disord Extra. 1(2011)429-439	トルコにおける異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)の疑い例の報告。患者は47歳男性で、認知機能低下、運動失調、人格変化等で来院した。臨床症状及び神経学的所見が1996年以降英国等で報告されているvCJDに一致し、WHOのvCJD可能性例の症例定義にも該当した。患者には死体由来の下垂体性ホルモンの摂取、脳神経外科手術、臓器・組織移植歴、輸血歴のいずれもなく、vCJD発生国への渡航歴もなかった。感染源の特定が進められている。
43	炭疽	OIE 2011 November 25	クロアチアにおける炭疽:発生日 2011年11月12日、最初の確定日 2011年11月22日、報告日 2011年11月25日、原因 炭疽菌。2011年11月12日にSisacko-Moslavacka郡で炭疽のアウトブレイクが発生した。感染の疑い例ウシ7頭、ウマ4頭、ブタ6頭、確定例ウマ1頭、死亡例ウマ1頭、屠殺例ウマ1頭であった。
44	炭疽	ProMED-mail 20120126.1023137	アルゼンチンにおける炭疽感染の報告。2012年1月初旬、ブエノスアイレスにおいて炭疽のアウトブレイクが2件発生した。1件目はGuaminiの農場で、ウシ4例が死亡した。2件目はOlavamiaの農場でウシ6例が死亡している。
45	炭疽	ProMED-mail 20120224.1051514	米国における家畜の炭疽感染の報告。ミシシッピ州のCoahoma Countyにおいて、ウシの炭疽感染例1例が確認された。現地獣医師からの通報で、同農場が隔離された。感染が疑われた家畜2例について獣医学検査機関に提出され、そのうちの1例で炭疽感染が確定診断された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
46	炭疽	ProMED-mail 20120507.1125491	ウクライナにおけるヒト炭疽感染の報告。ウクライナのチェルカスイで、38歳の男性がブタの食肉処理により炭疽に感染したことが、州の非常事態省のプレスサービスから報告された。豚肉処理業者である患者は腕に皮膚病変を発症し、受診先で炭疽を診断された。患者は感染症クリニックに入院し、軽快している。公衆衛生センターは感染源の調査を行っている。
47	結核	J Med Microbiol. 60(2011) 1003-1009	ロシアにおける結核菌の遺伝子型に関する報告。ロシアのノボスリブスク地域で広がる結核菌の遺伝子学的多様性及び薬剤耐性を検討するため、患者より採取された結核菌106例を分析した。その結果、67例の遺伝子型が特定されたが、そのうち50例が北京型ファミリーであり、北京型が同地域における最も一般的な菌株であることが明らかとなった。また、87.5%の菌株がイソニアジド耐性、61%がリファンピシン耐性であり、薬剤耐性と北京型菌株には有意な相関が確認された。
48	結核	ProMED-mail 20120117.1012906	インドにおける薬剤耐性結核の報告。2011年10月、インドMahimの病院において12例の薬剤耐性結核患者が報告され、1ヵ月後に1例が死亡した。その後、さらに1例の死亡と、患者1例から母親への感染が判明した。州政府当局は患者をJaysingpurの療養所に移すことを決定した。
49	結核	ProMED-mail 20120206.1034331	各国における薬剤耐性結核の報告。WHOより、近年モルドバ、ベラルーシ、ロシアで検出される結核菌が高率に薬剤耐性を示していると発表された。ロシアの一部地域で、新たに確認された結核患者の29%が薬剤耐性菌であった。ベラルーシのMinskにおける多剤耐性結核の患者の割合は、ほぼ50%近くと考えられている。
50	大腸菌性胃腸炎	第70回日本公衆衛生学会総会. (2011)1901-4	と畜場搬入牛における志賀毒素産生性大腸菌(STEC)保菌状況に関する報告。平成21年7月から平成22年6月、大分県のと畜場に搬入されたウシ321例について舌表面のSTECの検出を行った。その結果、41例(12.8%)から44株のSTECが分離され、このうちeae遺伝子陽性は21株(47.7%)、hlyA陽性は35株(79.5%)であった。また、eae陽性株のうち5株の遺伝子型がO157:H7であった。月毎のSTEC分離状況を確認すると、eae陽性株は7-9月に全体の57.2%が分離されていた。このことから、夏季を中心に病原性の高いSTECがウシ舌表面に存在することが示された。
51	大腸菌性胃腸炎	MMWR. 61(2012)149-152	米国の刑務所における志賀毒素産生性大腸菌(STEC)O111感染症の報告。2010年4月、コロラド州の公衆衛生環境局は州内の刑務所において収容者3名が出血性の下痢を来したとの報告を受け、翌21日に便検体からSTEC O111が検出された。さらに食事に関わる従業員5名もSTEC O111感染症と診断された。これを受け収容者100名を対象に調査したところ、3-4月に下痢疾患があった症例14例を認めた。また、牛の糞の検体を検査したところ、ヒト分離菌とPFGEパターン的一致するSTEC O111が検出されたため、動物からヒトへの感染が疑われた。
52	サルモネラ	Eurosurveillance. Feb 2, 2012	フランスにおける豚肉ソーセージ摂取によるサルモネラ菌感染の報告。2011年12月、フランス国立サルモネラ研究センターは国立衛生研究所に対し、サルモネラ菌感染者が11月初週から2倍に増加していることを警告した。特定された感染者90例について疫学調査を行った結果、豚肉加工食品の摂取率が乾燥ソーセージだけ予測より高かった。39例についてスーパーマーケットでの購入品を追跡したところ、22例において乾燥ソーセージを購入しており、そのうち15例は同じ生産業者のものであった。フランス食品当局は当該ソーセージの販売中止と回収を指示し、公衆衛生上の対策をとった。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
53	サルモネラ 細菌感染	日本獣医師会雑誌. 65(2012)147-152	ブロイラーにおける薬剤耐性カンピロバクターとサルモネラに関する報告。2005年9月から2009年1月に鹿児島県のブロイラーから分離されたカンピロバクターとサルモネラについて、オフロキサシン (OFLX) とアンピシリン (ABPC) に対する感受性を調べた。その結果、両菌株が同時に分離された35農場のうち11農場でOFLXにカンピロバクターが耐性を示し、6農場でサルモネラが耐性であった。両菌株が共に耐性であったのは4農場であった。ABPC耐性はカンピロバクターで4農場、サルモネラで14農場認められ、両菌で共に耐性を示した農場はなかった。
54	ブルセラ症	OIE 2011 November 10	ドイツにおけるブルセラ症: 発生日 2011年11月7日、最初の確定日 2011年11月9日、報告日 2011年11月9日、原因 <i>Brucella suis</i> 。2011年11月7日にSchleswig-Holstein州でブルセラ症のアウトブレイクが発生した。ブタにおいて、感染の疑い例1020頭、確定例1頭、死亡例0頭、屠殺例0頭であった。
55	クロストリジウム 感染	第70回日本公衆衛生学会総会. (2011)2202-12	ヨルダンの養鶏におけるウェルシュ菌の感染状況と薬剤感受性に関する報告。ヨルダン北部の養鶏場で腸炎に罹患した155例のニワトリの腸よりウェルシュ菌を分離して遺伝子型を調査し、13種の抗菌薬について感受性を検討した。その結果、67例(43%)よりウェルシュ菌が分離され、菌型は全てエンテロトキシン非産生性のA型であった。これより食中毒の原因となるウェルシュ菌は検出されなかったが、分離された菌のうち7株では13種の抗菌薬全てに耐性を示した。
56	細菌感染	ProMED-mail 20111031.3235	インドにおける薬剤耐性腸チフスに関する報告。インドのムンバイ市内のチフス菌感染患者のうち、およそ70-80%の患者で経口投与したキノロン系薬剤に高度の耐性が認められた。
57	細菌感染	ProMED-mail 20120511.1129936	米国におけるカンピロバクターに感染したウシの乳製品の自主回収に関する報告。カルフォルニア州においてOrganic Pastures Dairy of Fresno Countyが製造した生クリームでカンピロバクターが検出されたため、同社が製造する乳製品の回収が州全体で指示された。州公衆衛生当局によると、少なくとも10例のカンピロバクター症患者が報告され、発症前に同社の製品を摂取していたことが報告されている。現在のところ、入院した患者や死亡例はない。
58	真菌感染	日本呼吸器学会雑誌. 49(2011)237	<i>Eutypella scoparia</i> によるヒト感染症例の報告。患者は80歳女性で、血痰自覚し受診したところ、胸部Xp及びCTにて右上葉に結節陰影を認めた。結節は内部構造効果乏しく、辺縁が濃染されて変性壊死傾向強く、また胸膜陥入像があり、肺癌が疑われた。気管支鏡検査を施行したところ、TBLB組織内に肉芽腫瘍性を伴い真菌菌系が認められ、気管支洗浄液より <i>Eutypella scoparia</i> が培養された。これまでに本真菌が感染症起因菌になった報告はなかった。
59	トリパノソーマ 症	Eurosurveillance. Mar 8, 2012	ケニアへのドイツ人旅行者におけるヒトアフリカトリパノソーマ症(HAT)の報告。2012年1月、ケニアのマサイマラ地区から帰国したドイツ人旅行者においてHATが確認された。患者は62歳男性で、マサイマラ国立保護区を訪れ、大半の時間を半袖半ズボンで過ごし、昆虫忌避剤を使用していた。帰国後に発熱により入院し、ギムザ染色で <i>Trypanosoma brucei rhodesiense</i> が確認された。スラミンによる治療が行われ、回復した。1カ月後に、マサイマラ地区からの輸入HAT症例が他にも1例報告された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
60	バベシア症	Ann Intern Med. 155(2011)509-519	米国における輸血関連バベシア症に関する報告。1979年～2009年に米国で輸血を受けて2010年までにバベシア症と診断された患者を調査した。その結果、輸血関連バベシア症例は162例が特定され、B. microti感染が159例、B. duncani感染が3例であった。B. microti感染例ではほとんどの症例が赤血球製剤に関連した感染であったが、4例は全血由来血小板製剤に関連していた。87%が風土病とされる7州(マサチューセッツ、ニューヨーク、コネチカット、ミネソタ、ロードアイランド、ニュージャージー、ウィスコンシン)で発生していた。B. duncani感染例においては3例とも赤血球輸血関連で、ワシントン州で1例、カリフォルニア州で2例記録されていた。以上の結果から、輸血関連バベシア症感染のリスク軽減のため、ドナー検査の必要性が示唆された。
61	バベシア症	Pediatrics. 128(2011)e1019-e1024	早産新生児における輸血関連バベシア症に関する報告。米国北東部において、バベシアに感染していた2つの血液製剤の輸血により7例のバベシア症例が発生した。臨床症状はこの集団において大きなばらつきがあった。超低出生体重児(760g)は最も重症であった。抗生物質での治療は軽度及び無症候性の感染症に効果があったが、最も重症であった2症例は長期の多剤処置を伴う2倍量の交換輸血が必要であった。Babesia microti感染症のリスクは現在の血液銀行の業務手順では排除されない。流行地域の新生児科の医師は早産児における輸血関連バベシア症を考慮するべきである。
62	バベシア症	Transfusion; published online. Dec 13, 2011	米国におけるバベシア症の輸血感染の報告。カリフォルニア在住の59歳の鎌状赤血球症(HbSS)患者で、Babesia duncani(B. duncani)の感染症例が報告された。唯一のリスク因子は赤血球輸血を受けたことであった。患者は数カ月以内にわたり輸血量が増加した後、2008年9月に血液スメアにより赤血球内原虫が発見され、診断された。B. microti陰性、B. duncani陽性であり、原虫18SリボソームRNAが血液検体から増幅された。輸血血液の調査の結果、カリフォルニア在住67歳の関連供血者が陽性であり、スナネズミに血液検体を接種したところB. duncaniが分離された。当該患者は2008年5月に関連輸血を受けてから4カ月以上を経て診断された。本症例はB. duncaniに起因する輸血関連症例の3例目であり、B. microtiの検査では検出不可能なバベシアが疾病原因となり得ることを強調している。
63	マラリア	ECDC News. Oct 28, 2011	ギリシャにおける三日熱マラリア感染の報告。2011年5月21日～10月26日の間に61症例の三日熱マラリア感染がギリシャで報告された。このうち33例は流行国への旅行歴がないギリシャ市民で、27症例が南ギリシャのLakonia県 Evrotasから報告された。加えて、季節労働者の28症例もEvrotasから報告され、これらの移民の大部分(21例)はマラリア流行国の出身者であった。発症ピークは9月5～18日の週であり、それ以降報告数は減少した。全症例が三日熱マラリアと確認され、基礎疾患を持つ70歳代男性の1死亡例を除き、全員軽症であった。
64	マラリア	http://wwwnc.cdc.gov/travel/news-announcements/malaria-greece.htm	ギリシャにおけるマラリア感染の報告。2011年8月までギリシャ南部に居住していた患者がマラリアに感染したことが米国にて報告された。患者にはマラリア流行国への渡航歴はなかった。ギリシャでは2011年6月以降マラリア流行地域への渡航歴がない患者のマラリア症例が7例報告されており、全例がギリシャ南部のLakonia県又はEvia/Euboea県で発生していた。米国CDCは、ギリシャ旅行者に対する抗マラリア薬持参の推奨まではしていないが、十分な予防措置をとるべきとしている。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
65	マラリア	Transfusion. 51(2011)2398-2410	メキシコへの渡航者におけるマラリア感染リスクに関する報告。メキシコ渡航者における供血延期条件の妥当性を検討するため、2006年に米国血液センター6施設においてメキシコ渡航のために供血延期となった885例を対象にドナーの感染リスクを現地住民のマラリア感染率を用いて算出した。その結果、メキシコでのマラリア感染は75%がChiapas州及びOaxaca州において発生していたが、72%のドナーがQuintana Roo州を旅行しており、それらのドナーの感染リスクは0.0080例/年又は125年に1例であった。また、リスクの高いOaxaca州を除いた全ての地域の供血延期を解除すると、年間65000人の供血者を取り戻し、マラリア感染リスクは20年に1例となる。このことから、Quintana Roo州のようなリスクが低いと判断される地域に関しては供血延期条件を緩和するべきと考えられた。
66	感染	MMWR. 61(2012)153-156	米国におけるクリプトスポリジウム症のアウトブレイクの報告。2011年6月、インディアナ州の消防署の職員の多くが消化器系疾患となり、1例がクリプトスポリジウム症のため入院した。全例がミシガン州の牛小屋の火災に出動し、消火活動のため消火栓と酪農場の水を使っていた。4つの消防署の消防士34例にアンケート調査を行ったところ、20例が当該消火活動後に消化器疾患を来しており、9例が医療機関を受診、1例がクリプトスポリジウム症による無石胆嚢炎で入院した。環境調査の結果、ヒト、ウシの糞及び池の水の検体からクリプトスポリジウムパルバムが検出された。
67	感染	第57回日本寄生虫学会. (2011)6, P9	イラン、ヨルダンにおける単包条虫の遺伝的多様性に関する報告。単包条虫の拡散について検討するため、イランとヨルダンのヒト、ヒツジ、ウシ、ラクダから単包虫を採取し、mtDNAのcox1遺伝子の塩基配列を中国及びペルー由来単包虫と比較して遺伝的多様性を解析した。その結果、全地域に共通するハプロタイプ(EG01)が存在し、いずれの地域においてもEG01とその派生的なハプロタイプが集団の過半数を占めた。一方で、EG01以外の多くは地域特異的なハプロタイプであった。また、遺伝的分化の指標となる固定指数(Fst)はいずれの集団間でも有意に0より高かった。このことから、単包条虫では過去において遺伝的集団の一つが選択され、急速に各地に拡散したことが示唆された。
68	その他	ProMED-mail 20111125.3451	オランダにおけるウシの原因不明疾患の報告。2011年8月、オランダ動物衛生当局は、オランダ東部の複数のウシ農場において多数のウシの重症下痢症、発熱、泌乳低下を確認した。ウシの便検体について検査が実施されたが、病原体は同定されなかった。10月以降は定常レベルに落ち着いている。
69	その他	The Himalayan Times. Dec 13, 2011	ネパールにおけるウシの原因不明疾患の報告。ネパールのヌワコットにおいて、約30頭のウシが原因不明で死亡した。農民によると、ウシは元気がなくなってから2日以内に死亡したとのこと。
70	その他	Transfusion. 51(2011)2367-2376	第2世代S-303病原体不活化処理後の保存赤血球(RBC)の生存率に関する報告。S-303はfrangible anchor-linker-effector(FRALE)複合体であり、アルキル化により強力に病原体を減少させる。第2世代S-303プロセス処理後のRBC生存能力を調査するために、27人の健康人より得られたRBCをS-303不活化群またはコントロール群に振り分けて処理し、35日間保存した後に標識RBCを被験者に戻して生存能力を評価した。その結果、S-303処理RBCの輸血24時間後回収率はコントロールと同等であった。生存率、T50生存率の中央値はコントロールよりも小さかったが、RBC生存曲線下面積にはほとんど差がなかった。また、臨床的に意味のある検査値の異常は認められなかった。S-303処理されたRBCは生理学的にも代謝的にも輸血に適していることが示唆された。